

Kāyatrayastotra と *Kāyatrayastotra-vivarāṇa*

津 田 明 雅

ナーガールジュナに帰せられる讃歌は多くあるが、いずれが中観派の祖とされるナーガールジュナ (Nāgārjuna, ca.150-250) の真作であるのか、それには検討の余地が多く残されている。ナーガールジュナの讃歌でサンスクリットの残されているものは *Catuḥstava* の 4 つ¹、*Kāyatrayastotra* (一部欠)、*Sattvārāḍhanastava* (一部欠)²、*Narakoddhara*³ (これらは順に P nos.2012, 2011, 2019, 2014=2022, 2015, 2017=5429, 2028 に対応) の計 7 つである。漢訳ではさらに少なく、『百千頌大集経地蔵菩薩請問法身讚』と『讚法界頌』(順に大正 413, 1675)⁴、『三身梵讚』と『仏三身讚』(順に大正 1677, 1678)、『八大壺塔名号経』(大正 1685, 一部が一致)⁵ (これらは順に P nos.2010, 2015, 2024 に対応) である。最も多く残されているのがチベット訳で、P nos.2010-2015, 2017-2028, 2639, 2644-2646, 4604, 4878, 4881, 5471 という計 26、重複 (P nos.2014=2022, 2017=5429, 2639=2645) を除くと計 23 の讃歌がある。

本稿ではこれらのうち、サンスクリットの一部、漢音訳、チベット訳、漢訳の残されている *Kāyatrayastotra* について、その校訂サンスクリットおよび校訂チベットテキストを提示したい。チベット訳にはこの讃歌に対する注釈もあり、併せてこのテキストも示す⁶。

1. *Kāyatrayastotra* について

本讃歌に関してはすでに拙稿 (2005)⁷で詳細に検討したので、テキストおよび追加

¹ Lindtner, Chr. (1982) pp.121-161, 拙著 (2006) pp.11-289.

² *ibid.* pp.300.9-301.17, 306.18-21, 337-342, 374-378; Hartmann, Jens-Uwe (2007).

³ Lindtner, Chr. (1979); 拙著 (2006) p.306.4-10.

⁴ 早島理 (1987), 拙著 (2006) pp.293.31-295.24.

⁵ 拙稿 (2007).

⁶ 本稿作成にあたり、宮崎泉准教授 (京都大学) には資料の提供、テキストの校訂、翻訳等に関して多くのご教示をたまわった。特に注釈テキスト中に複数の偈頌が含まれることはほぼすべて同氏のご指摘である。ここに記して感謝したい。

⁷ 次にもほぼ同内容でまとめてある: 拙著 (2006) pp.296.11-300.8.

の情報を示すにとどめる。テキストとしては以下のものが得られる。

<サンスクリット>

『三身梵讃』(大正 1677)サンスクリットを漢字で音写。第 4 偈 d 句後半が欠ける。

Deb ther sñon po の冒頭部分⁸。本讃歌の第 1-3 偈に相当。

Sekoddeśaṭīkā の“*Tantrottara*”の引用部分⁹。本讃歌第 1-3 偈。

Cakrasaṃvaratantra 注の引用部分¹⁰。本讃歌第 1-3 偈。

Āryamañjuśrīnāmasaṃgīti 注の引用部分¹¹。本讃歌第 1-3 偈の各冒頭部分。

<チベット訳>

Kāyatrayastotra-nāma (P no.2015)

Śrīkālacakratantorottara-tantraḥḍaya-nāma (P no.5)の引用部分。本讃歌第 1-3 偈。

<漢訳>

『仏三身讃』(大正 1678)

サンスクリットの校訂本および現代語訳に関しては、レヴィ氏による『三身梵讃』からのテキストおよびフランス語訳¹²、同じく『三身梵讃』による榊亮三郎氏のテキストおよび和訳¹³、第 1-3 偈が既刊の諸本¹⁴から、第 4 偈がチベット訳からの還梵による、ナムドゥル氏のテキストおよびヒンディ語訳¹⁵がある。

チベット訳に関しては、寺本婉雅氏によるテキストと和訳¹⁶、ナムドゥル氏によるテキスト (P, D, N, C, S を利用しているようであるが、誤りが多い¹⁷) がある。また同

⁸ Roerich, G. N. (1949) p.1.6-22.

⁹ Carelli, M. (1941) p.57.18-29.

¹⁰ Pandey, J. Sh. (2002) pp.82.17-83.15.

¹¹ uktañ ca *Nāgarjuna-pādaiḥ* “yo nāiko nāpy aneka” ity-ādinā dharma-kāya-lakṣaṇam / “lokātītām acintyām” ity-ādinā sambhoga-kāyasya / “sattvānām pāka-hetoḥ kvacid anala iva bhāti yo dīpyamānaḥ” ity-ādinā nirmāṇa-kāyasya / “trai-lokyācāram uktam” ity-ādinā mahā-sukha-kāyasya / : Lal, B. (1994) p.94.20-23.

¹² Chavannes, E. (1896) pp.17.13-21.17. von Staël-Holstein, B. A. (1911)にもそのテキストの掲載あり。

¹³ 榊亮三郎 (1918).

¹⁴ 参照文献が明記されていないが、Chavannes, E. (1896)と von Staël-Holstein, B. A. (1911)は未見とあるから、おそらく漢音訳の『三身梵讃』は用いず、引用文献である *Deb ther sñon po* や *Sekoddeśaṭīkā* など残りの 4 文献の当該箇所を利用したと考えられる。

¹⁵ Namdol, G. (2005) pp.58.1-60.3.

¹⁶ 寺本婉雅 (1929) pp.182.3-186.9.

¹⁷ そのテキストと本稿でのテキストを比較すると、相違があるのは次の箇所である。前者がナムドゥル氏によるもの、後者が筆者によるもの。(前文) -traya- / -trīya- P, N と -traya- D / -trīya- P, N, C, S、(前文) *ḥes bya ba / om. D, S* と *ḥes bya ba D / om. P, N, C, S*、(2c) *dam pa'i / dam pa P, N, S* と *dam pa'i D / dam pa P, N, C, S*、(2c) *kun du (no variant)* と *kun tu P, N, C, S / kun du D*、(3b) *la lar yañ / la la ru P, N, S* と *la la ru P, N, C, S / la lar yañ D*、(3c) *thabs tshul mams kyis / thabs tshul D, C* と *thabs tshul mams kyī P, N, C, S / thabs tshul D*、(4c) *bdag gis / bdag gi P, N, S* と *bdag gis D / bdag gi P, N, C, S*、(4d) *'dzud par / 'jug par P, N, S* と *'jug par P, N, C, S / 'dzud par D* ナムドゥル氏のものは特にチョネ版の読みが欠落あるいは誤っている。

氏の指摘¹⁸により、*Sekoddeśaṭīkā* の引用する‘*Tantrottara*’というテキストは *Śrīkālācakraṭantorottara-tantrahṛdaya* (P no.5)であることが明らかとなった。そこには ‘slop dpon Klu yis gañ gsuñs pa’ として本讃歌の引用がある¹⁹。作者が *Sekoddeśaṭīkā* の伝える *Nāgāhvaya* ではなく、*Klu* (**Nāga*) とされることには注意すべきである。

漢訳の『仏三身讃』に関しては、平等通昭氏による解題と和訳²⁰がある。サンスクリット、漢音訳、チベット訳のいずれとも完全には一致せず、特に第2偈は一致するところが少ない。

なお、ナムドゥル氏によりいくつかの密教文献に本讃歌が引用されることが明らかとなった²¹。*Cakrasaṃvaratantra* 注では第 1-3 偈が引用されるのみであるけれど、*Āryamañjuśrīnāmasaṃgīti* 注では部分的ではあるが全 4 偈が引用され、その第 4 偈は *Deb ther sñon po* や *Sekoddeśaṭīkā* (あるいは *Śrīkālācakraṭantorottara-tantrahṛdaya*) のものと一致する。これら第 4 偈が異なるテキストに関してはさらなる検討が必要である。

2. *Kāyatrayastotra-vivarāṇa* について

これは先の讃歌に対する注釈で、チベット訳 (P no.2016) にのみ伝わり、同じくナーガールジュナ作とされる。これまで校訂テキストの出版はなく、わずかに寺本婉雅

¹⁸ Namdol, G (2005) pp.65.15, 66.5.

¹⁹ (P Ka143b5, D Ka130b4, N Ka189a1, C Ka149a4)gañ žig sku yi mtshan ñid 'dir ni (C 149a5)sañs rgyas pa yi slop dpon Klu yis gañ gsuñs pa //

gañ žig gcig min du ma min la bdag(P, D, C / rañ dañ (N 189a2)bdag N) gžan la phan phun(D, N, C / tshun P) tshogs chen po'i rten gyur pa // (P 143b6)dños min(P, D, C / med N) dños po med min (D 130b5)nam mkha'(P, D, C / namkha' N) (C 149a6)bžin du re mñam mam par dpyad dka'i(D, N / ka'i P, C) rañ bžin ñid // gos med mam par (N 189a3)gyur med ži ba mtshuñs pa med pa mñam žin khyab pa(P, C / la D, N) spros pa med // dpe med so so(P, D, C / sor N) rañ gis rig bya rgyal (P 143b7)ba mams (C 149a7)kyi chos kyi sku la bdag phyag 'tshal // (1)

gañ žig 'jig (D 130b6, N 189a4)rtēn las 'das bsam mi khyab pa legs spyad(D, N, C / dpyad P) 'bras bu bdag ñid phun sum tshogs // blo ldan chen por gyur pa mñes pa'i rgyur gyur (C 149a7)'khor gyi dbus su(P, D, C / dbusu N) sna tshogs (P143b8)gsuñ (N 189a5)mdzad ciñ // 'jig rten kun la khyab pa rgyun mi 'chad pa rgya che'i dam chos sañs rgyas mams kyi (D 130b7)gsuñs // loñs spyod rdzogs sku chos kyi rgyal (C 149b1)po chen por gnas pa de la 'dir (N 189a6)ni(P, D, C / na N) bdag phyag 'tshal // (2)

gañ žig (P 144a1)sems can mams kyi smin pa'i rgyur gyur la lar(D, N, C / mar P) me bžin gsal bar snañ ba dañ // slar yañ la lar mñon par byañ chub chos kyi (C 149b2)'khor lo (N 189a7)rab tu ži ba (D 131a1)gañ mthoñ ba // mam pa du mar(D, N / ma P, C) 'gro ba'i gzugs kyi thabs (P 144a2)kyis 'jug ciñ srid pa gsum gyi 'jigs pa 'joms // phyogs bu'i rjes su(P, D, C / rjesu N) 'jug pa don chen(P, D, C / chen chen no N) (N 189b1)thub pa mams (C 149b3)kyi sprul pa'i sku la phyag 'tshal lo(P, D, C / 'tshalo N) // (3)

kham s gsum spyod pa las grol mkha' (D 131a2)dañ mñam par (P 144a3)gyur pa dños po kun gyi rañ bžin ñid // dag ciñ ži la mam dben mchog tu (N 189b2)ži la rañ bžin mal (C 149b4)'byor ñid kyis rtogs bya ba // rtogs dka' brtag par dka' la ži ba mi mñam mñam par khyab ciñ (P 144a4)mtshan ma med pa ñid // mi mñam(D, N / mñam pa yi P, C) bde ba mam (D 131a3)par mi rtog (N 189b3)sku gcig rgyal ba mams kyi (C 149b5)sku la phyag 'tshal lo(P, D, C / 'tshalo N) // (4)

²⁰ 平等通昭 (1932).

²¹ *Cakrasaṃvaratantra* 注: Namdol, G (2005) pp.64.25-65.1; *Āryamañjuśrīnāmasaṃgīti* 注: *ibid.* p.65.15-20; *Śrīkālācakraṭantorottara-tantrahṛdaya-nāma: ibid.* pp.65.13-15, 66.5-6.

氏による和訳がある²²。

注釈の内容は、偈頌中の語句それぞれに対して丁寧に注釈したもので、特に思想的なものはない。ただ、注釈の真作性を疑わせる記述がいくつか見受けられる。結論からいうと、本頌も注釈もナーガールジュナより後代でかつ同一の人物による著作の可能性はある。

冒頭の「偉大な我をもつ [方] (仏) の三身の讃歌は、ナーガールジュナがお作りになったものであるが、他に請われたので、どのように構成されているか分析しよう。」(P 82a5) という偈頌は、マンジュシュリーに対する礼拝の言葉の後にあり、また内容的にみても注釈中の記述であるから、チベット訳者ではなく注釈者自身の言葉といえる。注釈者が一人称ではなくナーガールジュナの名を用いるということは、本頌はナーガールジュナの作であるが注釈はそれ以外の者によって著わされた可能性があるといえる。ナーガールジュナの他の著作²³において、その名前がでてくるものはない。

第3偈注釈中の「このような変化の身体であるところの「その方に礼拝します」と、師ナーガールジュナによって説かれている。」(P 85a4-5) という記述もまた、ナーガールジュナの名が用いられており、しかも「師 (slob dpon)」の語まで付いている²⁴。ここからも、本頌の作者はナーガールジュナであるが注釈者は彼でない可能性がでてくるといえよう。

ナムドゥル氏もこれら2つの記述から同様に考え、注釈者はナーガールジュナではないとする。同氏はさらに、テキスト末尾の「師ナーガールジュナがお作りになった、『三身に対する讃歌という [著作] の注釈』を終わる。」(P 86a7) の「師ナーガールジュナがお作りになった」は「讃歌」にかかるのであって「注釈」にかかるのではない、注釈をナーガールジュナに帰したのは大蔵経編纂者の誤りではないかとする²⁵。

一方で、「努力と精進の勤勉さをもって自身で三身の意味と作用を究極に達 [せしめること] が「必要性の必要」であると、知られるべきである。」(P 82b3-4) という

²² 寺本婉雅(1929) pp.186.12-198.6.

²³ 現時点で真作と考えられる、拙著(2006) pp.445-448 で扱った次の17作品。Mūlamadhyamakārikā, Śūnyatāsaptati, Vīgrahavyāvartanī, *Vyavahārasiddhi (Tha sñad grub pa), Vaidalyaprakaraṇa, Prañītyasamutpādaya, Yuktiśāstikā, 『菩提資糧論』, Ratnāvalī, Suhrillekha, Mahāyānaviṃśikā, Lokāitastava, Niraupamyastava, Acintyastava, Paramārthastava, Stutyāitastava, Niruttarastava. ただし、他にも検討の余地のある著作はある。

²⁴ 著者が自らを「師 (slob dpon)」と呼ぶことがあるかに関しては、Bhāviveka の Tarkajvālā でも問題となる。江島恵教 (1980) pp.13.20-14.29; Seyfort Ruegg, D (1990) pp.63.33-64.24.この問題に関しては安間剛志 (2007) pp.7.18-8.2, 9.6-8, 9.17-19 に詳しい。ナーガールジュナに帰せられる Prañītyasamutpādaya-vyākhyāna にも問題となる slob dpon の語が2度みられるが、これらは弟子と師との問答の中で用いられたものであるから、著者自らに対する呼称であるかどうかはどちらともいえない。梶山雄一 (1981) pp.2.29, 3.6; Lindtner, Chr. (1982*) p.184.8-11.

²⁵ Namdol, G. (2005) p.63.26-64.16.

記述もある。この「自身」が何を指すかについては2通り考えられる。まず、この「自身」が著者自身を指す場合である。そうであれば、本頌と注釈は同一の作者となる。これは先の可能性と矛盾するため、その解消のためには、本頌の作者はナーガールジュナの名をかりた別の人物と考えなければならない。すなわち、本頌も注釈もナーガールジュナではなく、同一のある人物によって著わされたと考えざるをえない。次に、「自身」がその前に出てくる「愚者たち (rmoṅs pa dag)」(P 82a7) を指す場合である。こちらであれば先にみた可能性と矛盾することなく、本頌はナーガールジュナ作、注釈は別人作、という可能性が残ることになる。

これら2つのうち可能性の高いのは前者だといえる。すでに拙稿(2005)で検討したように、三身の発展段階からいって本頌の作者がナーガールジュナである可能性は高くない。したがって、後代の誰かが彼に仮託して本讃歌を著わし、同一人物がさらにその注釈を著わした可能性は十分に考えられよう。ただし、これら3点の記述だけではその決定的な根拠になるとはいえず、さらに本頌および注釈の内容、あるいは三身説の検討が必要である。

参考文献および略号 (太字部分)

- Brunnhözl, K. (2007)** *In Praise of Dharmadhātu: Nāgārjuna and the Third Karmapa, Rangjung Dorje*, Ithaca, New York; Boulder, Colorado.
- 平等通昭 (1932) 「仏三身讃解題, 仏三身讃」, 『国訳一切経』, 論集部 5, 大東出版社, 東京, pp.155-157.
- Carelli, M. (1941)** *Sekoddeśaṭīkā*, Gaekwad's Oriental Series, 90, Baroda.
- Chavannes, E. (1896)** “Les inscriptions chinoises de Bodh-gayā”, *Revue de l'Histoire des Religions*, 34, pp.1-58, esp. pp.17-21 (by Sylvain Lévi).
- 江島恵教 (1980) 『中観思想の展開 —Bhāvaviveka 研究—』, 春秋社, 東京.
- Gokhale, V. V. (1978)** “Encore: the Pratītyasamutpādahṛdaya-kārikā of Nāgārjuna”, *Principal V. S. Apte Commemoration Volume*, Poona, pp.62-68.
- Hartmann, Jens-Uwe (2007)** “Der Sattvārādhanaśāstra und das Kṣāraṇadīśūtra”, *Pramāṇakīrtiḥ*, part 1, Wien.
- 早島理 (1987) 「『讃法界頌』考」, 『長崎大学教育学部社会科学論叢』, 36, pp.41-90.
- 梶山雄一 (1981) 「蔵本『因縁心論釈』」, 『日本仏教学会年報』, 46, pp.1-15.
- Lal, B. (1994)** *Āryamañjuśrīnāmasaṃgīti with Amṛtakaṇikā-ṭīpaṇī by Bhikṣu Raviśrījñāna and Amṛtakaṇikodyota-nibandha of Vibhūticandra*, Bibliotheca Indo-Tibetica, 30, Sarnath and Varanasi.
- Lindtner, Chr. (1979)** “Narakodddharastava”, *Acta Orientalia*, 40, pp.146-155.
- Lindtner, Chr. (1982)** *Nagarjuniana: Studies in the Writings and Philosophy of Nāgārjuna*, Copenhagen.

- Lindtner, Chr. (1982*)** “Adversaria Buddhica”, *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens und Archiv für Indische Philosophie*, 26, pp.167-194.
- Namdol, G. (2005)** “Mahācārya ārya Nāgārjuna dvārā viracita Trikāyastotra”, *Dhīh*, 39, pp.51-66.
- Nanjio, B. (1923)** *The Lankāvatārasūtra*, Bibliotheca Otaniensis, 1, Kyoto.
- Pandey, J. Sh. (2002)** *Śrīherukābhīdhānam Cakrasaṃvaratantram with Vivṛti Commentary of Bhavabhaṭṭa*, 1, Rare Buddhist Texts Series, 26, Sarnath and Varanasi.
- Roerich, G. N. (1949)** *The Blue Annals*, 1, Calcutta.
- 榊亮三郎 (1918)** 「三身梵讚」, 『梵漢独対校・西藏文和訳 中論無畏疏』, 寺本婉雅, reprint 国書刊行会, 東京, 1974, 附録 pp.1-7.
- Seyfort Ruegg, D. (1990)** “On the authorship of some works ascribed to Bhāvaviveka/Bhavya”, *Earliest Buddhism and Madhyamaka*, Leiden, etc, pp.59-71.
- 寺本婉雅 (1929)** 「龍樹造・仏三身讚及其疏」, 『大谷学報』, 10-1, pp.176-198.
- 津田明雅 (2005)** 「『三身讚』について」, 『印度学仏教学研究』, 54-1, pp.84-87.
- 津田明雅 (2006)** 『Catuḥstava とナーガールジュナ —諸著作の真偽性』, 博士論文, 京都大学.
- 津田明雅 (2007)** 「Nāgārjuna に帰せられる Aṣṭamahāsthānacaityastotra について」, 『印度学仏教学研究』, 56-1, pp.105-110.
- von Staël-Holstein, B. A. (1911)** “Bemerkungen zum Trikāyastava”, *Bulletin de l'Académie Impériale des Sciences de St.Petersbourg*, 5, pp.837-845.
- 安間剛志 (2007)** 『Tarkajvālā 研究』, 修士論文, 京都大学.
- P** 北京版, 鈴木大拙編『影印北京版 西藏大蔵経—大谷大学図書館蔵—』, 46, 東京, 京都, 1958.
- D** デルゲ版, Dharma Mudranālaya, ed. (1981) *The Nyingma Edition of the sDe-dge bKa'-gyur and bsTan-'gyur*, 37, Dharma Publishing, Oakland.
- N** ナルタン版, 京都大学附属図書館所蔵.
- C** チョネ版, テンギュル: Microfiche Edition published by the Institute for Advanced Studies of World Religions, New York, vol.209. カンギュル: Coni Kanjur, Microfilm 95/4780 SO ASIA, The Library of Congress, Washington, D. C, 1999, vol.63.
- S** 金写本, 『bsTan 'Gyur (丹珠爾)』, 1-3, 天津古籍出版社, 1988.

*Namdol, G. (2005)のヒンディ語読解に際しては水野真希氏のご協力を得た。ここに記して感謝したい。

Kāyatrayastotra

(P Ka1,81b2) (N Ka78a4) (C Ka80a4) (S Ka99b1) *sKu gsum la bstod pa zes bya ba*²⁶ ||²⁷

(D Ka70b3) rgya gar skad du | *Kāyatrayastotra-nāma*²⁸ | (P 81b3)

bod skad du | *sKu gsum la bstod pa zes bya ba*²⁹ | (C 80a5)

'phags pa 'Jam dpal^(S 99b2) g'zön nur gyur³⁰ (N 78a5) pa la phyag 'tshal lo³¹ ||

yo nāiko nāpy anekah sva-para-hita-mahā-saṃpannādhāra-bhūto³²

nāivābhāvo na bhāvaḥ kham iva sama-raso durvibhāvya-svabhāvaḥ³³ |

nirlepaṃ nirvikāraṃ³⁴ śivam asama-samaṃ vyāpinaṃ niṣprapañcaṃ³⁵

vande pratyātma-vedyaṃ³⁶ tam aham anupamaṃ dharma-kāyaṃ jinānām || 1 ||

gcig min du ma ma yin bdag dañ g'zan la phan pa phun sum tshogs chen g'zir gyur pa || (P 81b4)

dños min^(D 70b4) dños po med pa ma yin mkha'ltar ro gcig rtogs par dka'ba'i rañ^(C 80a6) b'zin can || (S 99b3)

gos pa med ciñ mi^(N 78a6) 'gyur źi la mi mñam mñam pa khyab pa can te spros med pa ||

so so rañ rig rgyal ba^(P 81b5) mams kyi³⁷ chos sku dpe med gañ yin de la bdag phyag 'tshal || 1

lokātītām³⁸ acintyām³⁹ sukṛta-śata-phalām⁴⁰ ātmano yo vibhūtiṃ

parṣan-madhya⁴¹ vicitrām prathayati⁴² mahatīm⁴³ dhīmatām⁴⁴ prīti-hetoḥ⁴⁵ |

²⁶ ba P, N, S / pa C

²⁷ D omits this line.

²⁸ -traya- D / -triya- P, N, C, S

²⁹ zes bya ba D / om. P, N, C, S

³⁰ gyur D, N, C, S / om. P

³¹ 'tshal lo P, D, C, S / 'tshalo N

³² -saṃpannā- Sakaki: 榊亮三郎 (1918) / -saṃpadā- Lévi: Chavannes, E. (1896) / -saṃpadā- Roerich:

Roerich, G. N. (1949); Carelli: Carelli, M. (1941); Pandey: Pandey, J. Sh. (2002)

³³ sama-raso durvibhāvya- Roerich, Carelli / sama-raso durvibhāva- Pandey / samara-?- -?-vibhāva- Lévi / sama-raso durvibhāvana- Sakaki

³⁴ nirlepaṃ nir- Lévi, Roerich, Carelli, Pandey: from the rule of the meter / nirṛha-nir- Sakaki

³⁵ niṣprapañcaṃ Sakaki, Roerich, Carelli, Pandey / -?-prapañcaṃ Lévi

³⁶ -vedyaṃ Sakaki, Lévi, Carelli, Pandey / -vedaṃ Roerich

³⁷ kyi P, D, N, S / kyis C

³⁸ -tām Sakaki, Lévi, Pandey, Lal: Lal, B. (1994); from the rule of the meter / -tam Roerich, Carelli

³⁹ -yām Sakaki, Lévi, Pandey, Lal / -yaṃ Roerich, Carelli

⁴⁰ -śata-phalām Roerich, Carelli: from the rule of the meter / -śata-phalam Sakaki / -sama-phalām Lévi / -saphalā[latā]m Pandey

⁴¹ -madhya Sakaki, Roerich, Carelli, Pandey / -matte Lévi

buddhānām⁴⁶ sarva-loka-prasṛtam aviratôdāra-sad-dharma-ghoṣam⁴⁷
vande saṃbhoga-kāyaṃ⁴⁸ tam aham iha⁴⁹ mahā-dharma-rājya-pratiṣṭham⁵⁰ || 2 ||

rañ gi 'byor pa 'jig rten las^(D 70b5) 'das bsam^(S 99b4) gyis mi khyab legs mdzad^(C 80a7) brgya yi
'bras^(N 78a7) bu ni ||

blo can mams kyi dga' ba bskyed⁵¹ phyir^(P 81b6) 'khor gyi nañ du sna tshogs rgyas par ston
mdzad ciñ ||

rtag tu dam pa'i⁵² chos kyi sgra skad rgya chen 'jig rten kun tu⁵³ 'phro bar^(S 99b5) mdzad pa po ||
sañs rgyas loñs spyod rdzogs sku chos kyi rgyal^(D 70b6) srid gnas^{(N 78b1) (C 80b1)} pa gañ yin de^(P 81b7)
la phyag 'tshal lo⁵⁴ || 2

sattvānām pāka-hetoḥ⁵⁵ kvacid anala⁵⁶ ivābhāti⁵⁷ yo dīpyamānaḥ
saṃbodhau⁵⁸ dharmā-cakre⁵⁹ kvacid api ca punar dṛśyate⁶⁰ yaḥ praśāntaḥ⁶¹ |
nāikākāra-pravṛttaṃ⁶² tri-bhava-bhaya-haraṃ viśva-rūpair upāyair⁶³
vande nirmāṇa-kāyaṃ⁶⁴ daśa-dig-anugataṃ⁶⁵ taṃ⁶⁶ mahārthaṃ munīnām || 3 ||

42 prathayati Roerich, Carelli, Pandey / sthāpayati Sakaki / stabhayati Lévi

43 mahatīm Lévi, Roerich, Carelli, Pandey / mahatīm Sakaki

44 dhīmatām Sakaki, Roerich, Carelli, Pandey / -?-matām Lévi

45 -hetoḥ Roerich, Carelli, Pandey / -hetor Sakaki / -hetum Lévi

46 buddhānām Sakaki, Roerich, Carelli, Pandey / buddhānaṃ Lévi

47 -odāra- -ghoṣam Sakaki, Roerich, Carelli / -oddhāra- -ghoṣam Pandey / -odāra- -koṣam Lévi

48 saṃbhoga- Lévi, Pandey / kaṃbhoga- Sakaki / sambhoga- Roerich, Carelli

49 aham iha Roerich, Carelli, Pandey / ahaṃ dehaṃ Sakaki / aghanigha- Lévi

50 -rājya-pratiṣṭham Sakaki, Roerich, Carelli, Pandey / -rājām pratiṣṭhām Lévi

51 bskyed P, D, C, S / skyed N

52 pa'i D / pa P, N, C, S

53 tu P, N, C, S / du D

54 'tshal lo P, D, C, S / 'tshalo N

55 pāka-hetoḥ Sakaki, Roerich, Carelli, Pandey, Lal / bhāga-hetuḥ Lévi

56 anala Sakaki, Roerich, Carelli, Lal / analam Pandey / anabhra Lévi

57 ivābhāti Lévi, Roerich, Carelli, Pandey: from the rule of the meter / iva bhāti Lal / ivāvabhāti Sakaki

58 saṃbodhau Lévi, Pandey / sambodhau Sakaki, Roerich, Carelli

59 -cakre Lévi, Roerich, Carelli, Pandey / -cakraṃ Sakaki

60 dṛśyate Lévi, Roerich, Carelli, Pandey / darśayati Sakaki

61 praśāntaḥ Roerich, Carelli, Pandey / praśāntaṃ Sakaki, Lévi

62 -pravṛttaṃ Roerich, Carelli, Pandey / -pravṛtaṃ Sakaki / -prabhṛtaṃ Lévi

63 -rūpair upāyair Roerich, Carelli, Pandey / -rūpair upāyair Sakaki / -rūpirūpo yaḥ Lévi

64 nirmāṇa- Sakaki, Roerich, Carelli, Pandey / nirvāṇa- Lévi

sems can nmams ni smin par mdzad phyir la la dag tu me 'bar b'zin du gañ snañ žiñ ||
 la la ru⁶⁷ (S 99b6) ni rdzogs par byañ chub chos kyi 'khor lo rab tu ži bar gañ snañ la ||
 sna tshogs thabs^(P 81b8) tshul nmams kyi⁶⁸ (C 80b2) rnam pa^(N 78b2) du mar 'jug ciñ srid pa gsum^(D 70b7)
 gyi 'jigs sel ba ||
 phyogs bcur chub mdzad thub pa nmams kyi sprul sku^(P 100a1) don chen gañ yin de la phyag
 'tshal lo⁶⁹ || 3

sattvârthâika⁷⁰-kṛpāṇām⁷¹ aparimita-mahā-jñāna-puṇyôdayānām⁷²
 kāyānām saugatānām⁷³ prativigata-mano-vāk-pathānām trayāṇām⁷⁴ |
 kṛtvā bhaktyā⁷⁵ praṇāmaṃ kuśalam upacitaṃ yan⁷⁶ mayā bodhi-bījaṃ⁷⁷
 trai-kāyāṃs⁷⁸ tena labdhvā⁷⁹ jagad idam akhilaṃ bodhi-mārga niyuñjyāt⁸⁰ || 4 ||

sems can don gciḡ^(P 82a1) rgyun du⁸¹ mdzad ciñ bsod nams ye šes chen po dpag med^(C 80b3) las
 byuñ^(N 78b3) ba'i ||
 bde bar gšegs pa nmams^(S 100a2) kyi sku gsum yid dañ tshig gi⁸² lam^(D 71a1) las rab tu 'das pa la ||
 bdag gi⁸³ dad^(P 82a2) pas phyag byas dge ba byañ chub sa bon bsags par gyur pa gañ yin des ||
 sku gsum thob nas 'gro ba 'di^(C 80b4) dag^(S 100a3) ma lus byañ chub^(N 78b4) lam la nes par 'jug⁸⁴

65 daša-dig- Sakaki, Lévi, Carelli, Pandey / dašādīg- Roerich

66 taṃ Sakaki, Lévi, Pandey / taṃ Roerich, Carelli

67 la la ru P, N, C, S / la lar yañ D

68 nmams kyi P, N, C, S / om. D

69 'tshal lo P, D, C, S / 'tshalo N

70 This vowel must be long from the rule of the meter.

71 -ṇām Lévi / -ṇām Sakaki

72 -jñāna-puṇyôdayānām Sakaki / -yāna-puṇyānayanām Lévi

73 sauga- Lévi: from the rule of the meter / suga- Sakaki

74 -ṇām Lévi / -ṇām Sakaki

75 -tyā Sakaki / -tyāḥ Lévi

76 yan Lévi: from the rule of the meter / yeṇa Sakaki

77 -bījaṃ *ego* (my reading) / -bījam Sakaki / -vījam Lévi

78 trai-kāyāṃs *ego*: from the rule of the meter / tri-kāyāṃs Sakaki / tri-kāyās Lévi

79 labdhvā *ego* / labdhā Sakaki, Lévi

80 niyuñjyāt *ego* / niyojaye Sakaki / niyuñje Lévi

81 du D / tu P, N, C, S

82 tshig gi P, D, C, S / tshigi N

83 giš D / gi P, N, C, S

84 'jug P, N, C, S / 'dzud D

par śog | 4

Trikāyastavaḥ samāptaḥ ||

sKu gsum la stod pa zes bya ba ^(P 82a3) *slob dpon 'phags* ^{85 (D 71a2)} *pa Klu sgrub kyis mdzad pa*
rdzogs so ⁸⁶ || || ^(S 100a4) *rgya gar gyi mkhan po Kṛṣṇa-paṇḍita dañ* ⁸⁷ *lo tsā ba* ⁸⁸ *dge sloñ*
Tshul khirms rgyal ^(C 80b5) *bas bsgyur ciñ* ^(N 78b5) *žus te gtan la phab pa'o* || ||

『三身讚』

インド語で *Kāyatrayastotra-nāma*、チベット語で『三種の身体への讃歌という[著作]』。
聖なるマンジュシュリー王子 (**Āryamañjuśrīkumārabhūta*) に礼拝します。

1. 一ではなく多でもなく、自らと他者の利益の偉大な充足の拠り所となっており、実に非存在ではなく存在ではなく、空間のように一様の味をもち、捉えがたい本性 (svabhāva) をもつ、そうした汚れなく、変化することなく、寂静で、等しくなく等しく (比類なく)、[いたる所に] 満ちていて、[言語的] 多様性を離れた (niṣprapañca)、個々に知られるべき、喩えるものがない、そうした勝利者たちの法からなる身体 (dharmakāya) に私は礼拝します。

* (Tib.からの試訳) 一ではなく多でもなく、自らと他者の利益 [の] 充足 [の] 偉大な場となっており、存在ではなく非存在ではなく、空間のように一つの味をもち、捉えがたい本性をもつ、汚れなく、変化することなく、寂滅しているけれど、等しくなく等しく、[いたる所に] 満ちていて、[言語的] 多様性 (prapañca) がない、そうした、個々に知られるべき、勝利者たちの、喩えるものがない、法 [からなる] 身体に私は礼拝します。

2. 世間を超越し、思慮の及ばない、百の善い行いの結果という自らの財産を、群衆の中で様々に広く賢者たちの喜びのために示し、諸仏のあらゆる世間に広まる絶え間ない偉大な正しい教えの叫び声を [発した方]、そうした、偉大な法の王国にとどまっている [教えを] 享受 [せしめる] 身体 (saṃbhogakāya) に、私はこの [世間] で礼拝します。

⁸⁵ 'phags P, D, N, C / 'phaḍ S

⁸⁶ rdzogs so P, D, C, S / rdzogso N

⁸⁷ dañ P / dañ | D, N, C, S

⁸⁸ ba P, D, C, S / pa N

*自らの財産である、世間を超越した、思慮の及ばない、百の善い行いの結果を、賢者たちの喜びを生むために、群衆の中で様々に広くお説きになり、絶えず正しい教えの大きな叫び声をあらゆる世間に広げることがなされる方、そうした、法の王国にとどまっている仏の、[教えを] 享受 [せしめる] 身体に、礼拝します。

3. ある時は命あるものたちの成熟のために火のように燃え、輝き、そしてまたある時は悟りの法輪において繰り返し寂静 [な方] として現れ、様々な形によって、また諸々の手段によって多くの姿で活動し、三種の存在⁸⁹の畏れを取り除く、そうした、十の方角（あらゆる所）に満ちている、偉大な目的をもつ賢者たちの変化した身体 (nirmāṇakāya) に、私は礼拝します。

*命あるものたちを成熟させるために、時には実に火が燃えるように輝き、時には完全な悟りの法の輪を [回し] 寂静 [な方] として現われるけれど、様々な手段や形の (をした) 多くの姿で活動し、三種の存在の畏れを取り除く、そうした、偉大な目的のある十の方角に現れる、賢者たちの変化した身体に礼拝します。

4. 善逝たちの三種の身体は、命あるものの利益のために同一の慈悲をもち、量り知れない偉大な知恵と福德から生じたもので、心 (manas) やことば (vāg) [に依存した] 境涯を超越しているけれど、信仰心をもって礼拝をしてから、私が集めた吉祥な悟りの種子、それによってこの世界の万象 (jagat) 全体が、三種の身体を獲得して、悟りの道につながりますように。

*命あるもののためにひたすら絶えず行動し、量り知れない偉大な福德と知恵から生じたところの、善逝たちの三種の身体は、心やことば [に依存した] 境涯を超越しているけれど、私が信仰心によって礼拝をなして、集めたところの吉祥な悟りの種子、それによって三種の身体を獲得してから、この世界の万象が残りなく、悟りの道に入りますように。

『三種の身体への讃歌』を終わる。

* 『三種の身体への讃歌という [著作]』という、師である聖なるナーガールジュナがお作りになったものを終わる。インドの学者 Kṛṣṇapaṇḍita と翻訳僧 Tshul khriṃs rgyal ba によって翻訳され修正されて、確立された。

⁸⁹ 注釈(P no.2016)によれば、「三種の存在」とは欲、色、無色の三界における存在のこと。

Kāyatrayastotra-vivarāṇa

(P Ka1, 82a4) (N Ka78b5) (C Ka80b5) (S Ka101a1) *sKu gsum la bstod pa źes bya ba'i nram par 'grel ba* ⁹⁰ | ⁹¹
 (D Ka71a2) (S 101b1) *rgya gar skad du | Kāyatrayastotra-nāmasya vivarāṇa* ⁹² |
 bod skad du | *sKu* ^(D 71a3) *gsum la bstod pa źes bya ba'i nram par 'grel ba* ⁹³ || ⁹⁴ (C 80b6)
 'phags pa ^(N 78b6) 'Jam dpal ^(P 82a5) *gźon nur gyur pa la phyag 'tshal lo* ⁹⁵ ||

bdag ñid chen ^(S 101b2) po'i sku gsum gyi || bstod pa Klu sgrub kyis ⁹⁶ mdzad pa ||
 gźan gyis ⁹⁷ gsol bas bskul bas na || ji ltar bkod pa nram par dbye ||
 de la ⁹⁸ ^(D 71a4) **gcig min du ma** ^{(P 82a6) (C 80b7)} **ma yin źes** ^(N 78b7) bya ba la sogs pa'i tshigs su ⁹⁹
 bcad pa gsum gyis ¹⁰⁰ brjod par ^(S 101b3) bya ba dañ | dgos pa dañ | 'brel pa dañ | dgos pa'i yañ
 dgos pa brjod par bya ste | gañ gi phyir brjod pa dañ | dgos pa dañ | ^(P 82a7) 'brel pa med pa dag la
 ni so ^(C 81a1) sor rtog pa sñon ^(N 79a1) du ^(D 71a5) gtoñ ba dag len par mi 'gyur ro ¹⁰¹ ||
 de'i phyir 'dir ci ^(S 101b4) źig 'chad par 'gyur źes 'di la yañ dag par rmoñs pa dag dran pa 'jug par
 bya ba'i phyir brjod par bya ba bśad ^(C 81a2) do ¹⁰² | ¹⁰³ ^(P 82a8) bśad pa don med par rtog pa dag ñes
 par 'jug par bya ba'i phyir ^(N 79a2) dgos pa bstan to || thabs med par ^{(D 71a6) (S 101b5)} dogs pa bsal ba'i
 phyir 'brel pa bśad de ¹⁰⁴ | ¹⁰⁵ gźan du na thabs med pa dag la ji ltar 'jug par 'gyur || ¹⁰⁶ ^(P 82b1)
 de la 'dir sku gsum ^(C 81a3) ni brjod par bya ba'o ||
 de'i rañ gi ño bo ñid bśad pa ni dgos pa ste || ¹⁰⁷ de'i rañ gi ño bo ñid bśad ^(N 79a3) pa'i ^(S 101b6)

90 ba N?, C / pa P, S

91 | P, S / || || N, C ; D omits this line.

92 kāyatrayastotranāmasya vivarāṇa *ego* / kā ya tra ya sto tra nā ma sya bi ba ra nā ma P, D, N, C, S

93 ba C / pa P, D?, N, S

94 || N / | P, D, C, S

95 'tshal lo P, D, C / 'tshalo N, S

96 kyis D, N, C, S / gyis P

97 gyis P, N, C, S / gyi D

98 la P / la | D, N, C, S

99 tshigs su P, D, C / tshigsu N, S

100 gyis D / gyi P, N, C, S

101 'gyur ro P, D, C / 'gyuro N, S

102 bśad do P, D, C, S / bśado N

103 | P, N, C / || D, S

104 bśad de P, D, C, S / bśade N

105 | P, D, N, S / || C

106 || P, D, C / | N, S

107 || C / | P, D, N, S

phyir tshigs su¹⁰⁸ bcad¹⁰⁹ pa 'di byas so¹¹⁰ ||

de^(D 71a7) bas na dgos pa dañ tshigs su¹¹¹ bcad pa dag^(P 82b2) brjod¹¹² pa dañ¹¹³ brjod par bya ba'i mtshan ñid du 'brel pa'am^(C 81a4) |¹¹⁴ tshig dañ tshig can 'brel pa'am |¹¹⁵ thabs dañ thabs las byuñ ba'i mtshan ñid du¹¹⁶ 'brel^(S 102a1) pa'am |¹¹⁷ sgrub pa dañ sgrub par bya ba'i^(N 79a4) mtshan ñid du¹¹⁸ 'brel pa^(P 82b3) 'am |¹¹⁹ bya ba dañ byed pa'i mtshan^(D 71b1) ñid du¹²⁰ 'brel pa ni 'brel pa'o ||

de nas 'bad pa dañ rtsol ba'i¹²¹ ^(C 81a5) brtson 'grus dañ ldan par rañ ñid kyis sku gsum gyi don dañ^(S 102a2) bya ba mthar phyin pa ni dgos pa'i yañ dgos pa yin^(P 82b4) par¹²² 'ses par bya ste |¹²³ 'di ni re^(N 79a5) 'zig don gyi spyi yin no¹²⁴ || da ni yan lag gi don brjod par bya ste |

(1) gcig^(D 71b2) **min du ma yin** 'zes bya ba la^(C 81a6) sogs pa la |¹²⁵ gcig dañ du ma ni gcig dañ^(S 102a3) du ma ste | gcig¹²⁶ ni gñis pa¹²⁷ med^(P 82b5) pa ñid do || du ma ni mañ po ñid de | gcig dañ du mar ma gyur pa'i **chos kyi**^(N 79a6) **sku gañ yin pa de la bdag phyag 'tshal lo**¹²⁸ 'zes bya ba'i tha tshig go¹²⁹ ||¹³⁰

108 tshigs su P, D, C / tshigsu N, S

109 bcad P, D, N, S / bśad C

110 byas so P, D, C, S / byaso N

111 tshigs su P, D, C / tshigsu N, S

112 brjod P, N, C, S / rjod D

113 dañ P, D, N, S / dag C

114 | P, D, N, S / om. C

115 | P, D, N / || C, S

116 ñid du P, D, C / ñidu N, S

117 | P, D / || C, S

118 ñid du P, D, N, C / ñidu S

119 | D, N, C / || P, S

120 ñid du P, D, C, S / ñidu N

121 ba'i P, D, N / pa'i C, S

122 par D, N, C, S / bar P

123 | D / om. P, N, C, S

124 yin no P, D, C / yino N, S

125 | D, N / || P, C, S

126 gcig P, N, C, S / gñis D

127 pa P, N, C, S / om. D

128 'tshal lo P, D, C / 'tshalo N, S

129 tshig go P, D, C / tshigo N, S

130 || D / | P, N, C, S

ci'i phyir gcig kyañ ma^(C 81a7) yin la du ma^(D 71b3) yañ ma yin že na | de'i phyir gzod^{131 (S 102a4)}
 ma nas^(P 82b6) ma skyes pa'o zes 'byuñ bas na gañ thog¹³² ma ñid nas ma skyes pa de la gcig dañ
 du ma'i gnas skabs su¹³³ bya bar mi nus^(N 79a7) te |¹³⁴ nam mkha'¹³⁵ ltar yoñs su¹³⁶ chad pa
 med pa'i ño bo ñid do ||

chos^(C 81b1) thams cad kyañ de bžin ñid las byuñ^(P 82b7) bas na | de'i^(S 102a5) phyir^(D 71b4) gañ
 žig gañ las byuñ bar gyur pa ste | gañ gis sna tshogs pa'i gzugs su¹³⁷ gyur pa de ma mthoñ ste |
 sa¹³⁸ lu la sogs pa'i sa bon las^(N 79b1) ni sa¹³⁹ lu'i 'bras bu'o ||

de bžin du stoñ pa ñid^(C 81b2) las gañ žig 'byuñ bar^(P 82b8) 'gyur ba ni rtag pa dañ chad^(S 102a6)
 par mi 'gyur te | gañ gi phyir kun tu rtag pa ma lus^(D 71b5) pa dañ bral ba'i rgyal ba thams cad
 kyis kyañ stoñ žin sgyu ma dañ 'dra bar gžigs so¹⁴⁰ ||

gžan yañ khyad par du bya ba'i^(N 79b2) phyir **bdag**^(P 83a1) **dañ**^(C 81b3) **gžan la phan pa phun**
sum tshogs chen gžir gyur^(S 102b1) **pa** zes bya ba smos te | bdag dañ gžan ni bdag dañ gžan te |
 de dag la phan pa phun sum tshogs pa'i^(D 71b6) gžir gyur pa ni mñon^(P 83a2) par mtho ba dañ | ñes
 par legs pa'i¹⁴¹ mtshan^(C 81b4) ñid can gyi phun^(N 79b3) sum tshogs pa chen po'i gžir gyur pa zes
 bya ba'i^(S 102b2) don to ||

gañ gi phyir chos kyi dbyiñs gcig dañ du ma dañ bral ba'i ño bo thog ma dañ tha ma med pa^(P 83a3)
 stoñ pa ñid du¹⁴² bśad na | ji ltar na bdag dañ gžan la phan pa^(D 71b7) phun^(C 81b5) sum tshogs¹⁴³ pa
 chen po'i gžir gyur pa yin^(N 79b4) že na | ñes pa med de¹⁴⁴ | 'di^(S 102b3) ltar ma rig pa'i bag chags
 kyi stobs kyis¹⁴⁵ snod dañ bcud kyi tshul du gnas^(P 83a4) pa ltar bdag dañ gžan la phan pa phun
 sum tshogs pa chen po'i gžir gyur pa yin te |^{146 (C 81b6)} rmi lam la sogs pa'i šes pa bžin no¹⁴⁷ ||

131 gzod D, N, C, S / bzod P

132 thog P, D, C, S / thogs N

133 skabs su P, D, N, C / skabsu S

134 | D, N, C, S / || P

135 nam mkha' P, D, C, S / namkha' N

136 yoñs su P, D, C / yoñsu N, S

137 gzugs su P, D, C / gzugsu N, S

138 sa P, N, C, S / sā D

139 sa P, N, C, S / sā D

140 gžigs so P, D, C / gžigso N, S

141 legs pa'i D, C / leg psa'i N / leg pa'i P, S

142 ñid du P, D, N, C / ñidu S

143 tshogs P, N, C, S / chogs D

144 med de P, D, C, S / mede N

145 kyis D / kyi P, N, C, S

146 | P, D, N, S / om. C

147 bžin no P, D, C / bžino N, S

gal te ma^(D 72a1) rig pa'i^(N 79b5) bag^(S 102b4) chags dañ chos kyi dbyiñs thog ma dañ tha ma^(P 83a5)
 med pa'i ño bo de yañ ma rig pa'i bag chags su¹⁴⁸ gyur pa ni gla rtsi la sogs pas bsgos pa bzin
 te¹⁴⁹ | dños po rnams kyi¹⁵⁰ (C 81b7) chos ñid ni de lta bu'o || de bas na bdag dañ gzan la phan pa
 phun sum tshogs^(S 102b5) pa'i^(P 83a6) gzir^{(D 72a2)(N 79b6)} gyur pa yin no¹⁵¹ ||

gzan yañ dge ba'i gses gñen dañ phrad ciñ lam bzañ po rñed¹⁵² pas ma rig pa'i bag chags glo
 bur ba riñ¹⁵³ (C 82a1) du byas šiñ yoñs su¹⁵⁴ dag par gyur pa ni gser dañ zañs kyi dri ma dañ^(P 83a7)
 bral ba bzin te ||¹⁵⁵ 'di la^(S 102b6) yon tan dañ ñes pa len ciñ spoñ ba^(N 79b7) yod pa yin no¹⁵⁶ ||

de ci'i phyir že na |^(D 72a3) yañ dag pa'i don rtogs pa^(C 82a2) kho na tsam du zad de¹⁵⁷ | de'i
 phyir |¹⁵⁸

'di la bsal¹⁵⁹ bya ci yañ med ||¹⁶⁰ gzal¹⁶¹ par bya^(P 83a8) ba gañ yañ med ||
 yañ dag ñid la yañ dag blta¹⁶² || yañ dag mthoñ na^(S 103a1) rnam par grol ||¹⁶³
 zes gsuñs pa gañ 'di^(N 80a1) ltar rkyen dañ ldan pa ni kun nas ñon^(C 82a3) moñs par thal bar 'gyur
 gyi^(D 72a4) ma skyes pa skye bar ni ma mthoñ ño ||^(P 83b1) skyes pa 'gag pa dag las kyañ cuñ zad
 skye ba med de | mya ñan las 'das^(S 103a2) pa ni mar me dañ mtshuñs so¹⁶⁴ ||

gzan yañ khyad par du bya^(N 80a2) ba'i phyir | **dños min dños po med**^(C 82a4) **pa**¹⁶⁵ **ma yin**¹⁶⁶
 zes bya ba smos te |^(P 83b2) dños po ni gzugs su¹⁶⁷ yod pa'o ||¹⁶⁸ de^(D 72a5) med par gyur pa¹⁶⁹ ni

148 chags su P, D, C / chagsu N, S

149 te P, D, N, S / to C

150 kyi P, D, N, S / kiyis C

151 yin no P, D, C / yino N, S

152 rñed P, D, N, S / brñed C

153 ba riñ P, D, N, S / 'chiñ C

154 yoñs su P, D, C / yoñsu N, S

155 || P / | D, N, C, S

156 yin no P, D, C / yino N, S

157 zad de P, D, C, S / zade N

158 | D / om. P, N, C, S

159 bsal P, D, N, C / gsal S

160 || D, N, C / | P, S

161 gzal D / b'zag P, N, C, S

162 blta P, N, C, S / lta D

163 || D / om. P, N, C, S

Prañtyasamutpādhāṛdaya-vyākhyāna, kārikā 7 (Gokhale, V. V. (1978) p.65.19-20):

nāpaneyam atāḥ kiñcīt prakṣeptavyaṃ na kiñcana /
 draṣṭavyaṃ bhūtato bhūtaṃ bhūta-darśī vimucyate // 7

164 mtshuñs so P, D, C / mtshuñso N, S

165 pa P, D, N, C / om. D

166 yin P, N, C, S / yin || D

167 gzugs su P, D / gzugsu N, C, S

dños po med pa ste |¹⁷⁰ gñi ga las ldog par 'gyur bas na¹⁷¹ dños min^(S 103a3) dños po yod pa ma
yin¹⁷² zes bya ste |¹⁷³ yod pa dañ med pa dañ^(N 80a3) dbus las^(P 83b3) 'das par gyur pa'o ||

de ñid kyis^(C 82a5) **nam mkha'**¹⁷⁴ **ltar ro gcig pa** ste | nam mkha'¹⁷⁵ ltar zes bya ba ni nam
mkha'¹⁷⁶ dañ 'dra bar ro^(D 72a6) gcig ciñ mñam pa'i rañ bžin du gañ gyur pa de ni^(S 103a4) nam
mkha'¹⁷⁷ ltar ro¹⁷⁸ gcig ces bya'o ||^(P 83b4)

de ñid kyis na **rtogs par dka'**^(N 80a4) **ba'i rañ bžin can** te |¹⁷⁹ ^(C 82a6) dños po dañ dños po
med pa gñi ga dañ gžan las btsal ba dañ bral ba ñid do¹⁸⁰ ||

de bas na **gos pa med pa** ste | 'dod chags la^(D 72a7) sogs pa'i ñes^(S 103a5) pa'i dri ma dañ bral ba^(P 83b5)
ñid do¹⁸¹ ||

de ñid kyis ni¹⁸² **mi 'gyur ba** ste rañ gi ño bo ñid la mi^{(N 80a5)(C 82a7)} 'pho ba'o ||

ži ba ni ñon moñs pa thams cad ži bar gyur pa'o ||

mi mñam pa ni mtshuñs pa med pa'o ||

mñam pa ni chos thams cad kyī gžir^(P 83b6) mtshuñs par gyur pa'o ||^(S 103a6)

khyab^(D 72b1) **pa can** ni thams cad du soñ bar gyur pa'o ||

spros pa^(C 82b1) **med pa** ni spros pa^(N 80a6) thams cad dañ bral bar gyur pa'o ||

khyad par du bya ba gžan yañ **so so rañ rig** ces bya ba ste |^(P 83b7) sems can mñams¹⁸³ kyī so
so rañ gis rig par gyur pa gžon nu¹⁸⁴ ma'i^(S 103b1) bde ba dris pa bžin no¹⁸⁵ ||

dpe med pa ni dpe^(C 82b2) las^(D 72b2) 'das par gyur pa ste | de skad du¹⁸⁶ yañ |¹⁸⁷

168 || P, D, N, S / | C

169 pa P, D, N, S / ba C

170 | P, D, N, S / || C

171 na P, N, C, S / na | D

172 yin P, N, C, S / yin || D

173 | P, N, C, S / om. D

174 nam mkha' P, D, C, S / namkha' N

175 nam mkha' P, D, C, S / namkha' N

176 nam mkha' P, D, C, S / namkha' N

177 nam mkha' P, D, C / namkha' N, S

178 ltar ro P, D, C, S / ltaro N

179 | P, D, N, S / om. C

180 ñid do P, D, C, S / ñido N

181 ñid do P, D, C / ñido N, S

182 ni N, C / na P, D, S

183 sems can mñams P, D, C, S / semñ mñams N

184 gžon nu P, D, C, S / gžonu N

185 bžin no P, D, C / bžino N, S

186 skad du P, D, C / skadu N, S

187 | D / om. P, N, C, S

mtshuñs pa 'ga' yañ yod min te ||¹⁸⁸ tshig lam ^{(P 83b8) (N 80a7)} pa yañ¹⁸⁹ gañ žig yod ||¹⁹⁰
cuñ zad ñe ba'am riñ ba ni || 'ga' yañ yod pa ma yin no¹⁹¹ ||
'dren pa mñam pa ^(S 103b2) med gyur pa || de la dper ^(C 82b3) bya gañ žig gźal ||
skabs 'byed gźi dañ bral ba yi || mñam med ^(P 84a1) khyod la phyag ^(D 72b3) 'tshal lo¹⁹² ||
žes bśad ^(N 80b1) pas so¹⁹³ ||
de lta bu'i chos kyi sku ste chos kyi lus **de la bdag phyag 'tshal lo**¹⁹⁴ ||
ji lta bu su la že na | **rgyal ba rnams** ^(C 82b4) te |¹⁹⁵ ^(S 103b3) šes bya ma lus pa thugs ^(P 84a2) su¹⁹⁶
chud pas thugs byin gyis brlabs pa la lus dañ yid kyis phyag 'tshal lo¹⁹⁷ žes bya ba'i don to ||

(2) **rañ gi 'byor pa** ^(D 72b4) ni khamś ^(N 80b2) gsum pa thams cad kyi dbañ phyug chen po'i mtshan
ñid do¹⁹⁸ ||

khyad par ^(P 84a3) ji lta bu že na | ^(C 82b5) **'jig rten** ^(S 103b4) **las 'das pa** ste 'jig rten las rgyal ba'o ||
bsam gyis mi khyab pa ni semś kyi yul las riñ du gyur ba'o ||
legs mdzad brgya yi 'bras bu žes bya ba ^(N 80b3) ni sbyin pa la ^(P 84a4) sogs pa ^(D 72b5) pha rol
tu¹⁹⁹ phyin pa mams yun riñ por ñe bar bsags ^{(C 82b6) (S 103b5)} pa las skyes pa'o ||
gañ gi že na | **blo can rnams kyi** ste |²⁰⁰ byams pa dañ | mthoñ ba don yod dañ | ñan soñ
thams cad spoñ ba dañ | ^(P 84a5) mya ñan thams cad ñes par 'joms pa'i ^(N 80b4) blo gros la sogs pa'o ||
ci'i phyir že na | **dga'** ^(D 72b6) **ba bskyed** ^(C 82b7) **pa'i phyir** ^(S 103b6) te rab tu mgu ba'i rgyur ro²⁰¹ ||
'khor ni byañ chub semś dpa'i tshogs te de mams **kyi nañ du'o** |²⁰² ^(P 84a6)
sna tshogs pa ni mam pa du ma'o ||
rgyas par ston par²⁰³ **mdzad pa** žes bya'o || semś can mos ^(N 80b5) pa sna tshogs pa dag gi

188 || P, D, N, S / | C

189 pa yañ D / pa'añ P, N, C, S

190 || P, D, N, S / | C

191 yin no P, D, C / yino N, S

192 'tshal lo P, D, C / 'tshalo N, S

193 pas so P, D, C, S / paso N

194 'tshal lo P, D, C / 'tshalo N, S

195 | *ego* / om. P, D, N, C, S

196 thugs su P, D, C / thugs su N, S

197 'tshal lo P, D / 'tshalo N, S / 'tshal lo | C

198 ñid do P, D, C / ñido N, S

199 tu P, D, N, C / du S

200 || C / | P, D, N, S

201 rgyur ro P, D, C, S / rgyuro N

202 || D, N, C, S / | P

203 ston par P, D, N, C / om. S

bsam pa'i (C 83a1) khyad par gyi dbaṅ (S 104a1) du mdzad nas bye brag du (D 72b7) mar 'chad par mdzad pa'o || (P 84a7)

rtag tu dam pa'i chos kyi sgra skad rgya chen 'jig rten kun tu 'phro bar mdzad pa po²⁰⁴ zes bya ba ni śin tu rgya che ba'i dam pa'i chos kyi gsuñ ṅo²⁰⁵ || (C 83a2) thams cad²⁰⁶ (N 80b6) du 'jug (S 104a2) pas na rgya che ba'o || de ṅid kyis na de rgyun mi (P 84a8) 'chad par spro bas na śin tu mañ žin rgya che (D 73a1) ba la sogs pa'i dam pa'i chos ston ciṅ gsuñ bar 'gyur ba²⁰⁷ de la de skad ces bya'o ||

saṅs rgyas zes bya ba ni chos kyi de (C 83a3) kho na ṅid ji lta ba bžin (S 104a3) du brñes (N 80b7) śin (P 84b1) thugs su²⁰⁸ chud pa'o ||

loṅs spyod rdzogs sku zes bya ba ni rdzogs par loṅs spyod pa'i sku ste | sa bcu'i dbaṅ phyug (D 73a2) gi byaṅ chub sems dpa' mams la mnam pa sna tshogs pa'i chos ston (C 83a4) pa la sogs²⁰⁹ pas (P 84b2) loṅs spyod par mdzad (S 104a4) pa'o ||

de'i phyir (N 81a1) khyad par gžan yaṅ **chos kyi rgyal srid chen po la bžugs pa gaṅ yin** zes bya ba smos te | chos kyi srid kyaṅ yin la chen po yaṅ yin pas na chos kyi rgyal srid chen (P 84b3) (D 73a3) po ste (C 83a5) khams gsum pa thams cad kyi bdag po'o ||²¹⁰ (S 104a5) de la gnas (N 81a2) pa'i sku gaṅ yin pa de la de skad ces bya'o ||

(3) de ltar tshigs su²¹¹ bcad pa gñis kyis sku mnam pa gñis po'i raṅ gi ṅo bo ṅe bar bstan nas | (P 84b4) sprul pa'i sku'i ṅo bo bstan (C 83a6) pa'i phyir |

sems can rnams ni smin par mdzad (D 73a4) **phyir la la dag tu** (S 104a6) **me 'bar bžin du gaṅ** (N 81a3) **snaṅ žin**²¹² zes bya ba la sogs pa smos te | sems can rnams ni srog²¹³ chags rnams so²¹⁴ || (P 84b5) ci'i phyir ze na | smin par mdzad pa'i phyir te yoṅs (C 83a7) su²¹⁵ smin pa'i don du'o || gaṅ gis dus la la dag tu me daṅ 'dra žin byin za bžin du (S 104b1) kun nas 'bar (D 73a5) bar snaṅ žin 'od (N 81a4) daṅ ldan pas rab tu 'bar bar snaṅ ba'o²¹⁶ ||²¹⁷ (P 84b6)

204 po P, N, C, S / po || D

205 gsuñ ṅo P, D, N, C / gsuṅo S

206 thams cad P, D, C, S / thaṃd N

207 ba P, S / pa D, N?, C

208 thugs su P, D, N, C / thugsu S

209 pa la sogs P, D, C / om. S

210 || P, D, S / | N, C

211 tshigs su P, D, C / tshigsu N, S

212 žin P, N, C, S / žin || D

213 srog P, N, C, S / srogs D

214 mams so P, D, C / mamso N, S

215 yoṅs su P, D, C / yoṅsu N, S

216 ba'o P, D, N, S / pa'o C

gnas gañ du snañ že na | smras pa | **rdzogs par byañ chub** ^(C 83b1) ces pa ste | byañ chub pa ñid du'o ||

chos kyi 'khor lo ni Vārāṇasī²¹⁸ drañ sroñ²¹⁹ smra ba ri dvags²²⁰ kyi gnas su'o²²¹ ||

rab ^(S 104b2) **tu źi bar gañ snañ la** ²²² źes ^{(P 84b7)(N 81a5)} pa ni gyad kyi ñe 'khor ^(D 73a6) śiñ sā²²³ la zuñ gi tshal du yoñs su²²⁴ mya ñan las 'das pa chen po ^(C 83b2) ston pa'o ||²²⁵

khyad par ci źig ce na | **sna tshogs thabs tshul rnams kyi** źes bya ba ste |²²⁶ sañs rgyas dañ | rañ sañs ^(P 84b8) rgyas dañ |^(S 104b3) ñan thos dañ | byañ chub ^(N 81a6) sems dpa' dañ | tshañs pa dañ | brgya byin dañ | dbañ phyug ^(D 73a7) chen ^(C 83b3) po la sogs pa rnams pa sna tshogs pa'i bdag ñid du²²⁷ ston pa'o ||

bye brag ji lta bu že na | **rnams pa du mar** ^(P85a1) '**jug ciñ** źes pa ste | gdul bya sna tshogs pa ^(S104b4) rnams pa du ma'i rjes su²²⁸ ^(N81a7) 'jug par mdzad pa'o ||

khyad par ci źig ce na | **srid** ^(C 83b4) **pa gsum gyi 'jigs sel ba** ²²⁹ źes bya ba ste | 'dod pa ^(D 73b1) dañ gzugs ^(P 85a2) dañ gzugs med pa ste srid pa gsum gyi sems can rnams kyi skye ba la sogs pa'i ñes pa riñ ^(S 104b5) du mdzad pa ni 'jigs pa sel ^(N 81b1) ba'o²³⁰ ||

gźan yañ ^(C83b5) khyad par du bya ba'i phyir **phyogs bcur chub mdzad thub pa rnams kyi** ^(P85a3) **sprul sku don chen** źes bya ste | phyogs bcur chub par ^(D 73b2) mdzad pa ni phyogs bcu po rnams su²³¹ rjes su²³² khyab pa'o || thub pa ni sku dañ ^(S 104b6) gsuñ thub pa dañ ldan pas na ^(C 83b6) thub pa ste sañs rgyas bcom ^(N 81b2) ldan 'das so²³³ ||²³⁴ ^(P 85a4) don chen ni mñon par mtho ba²³⁵

217 || D, N, C, S / | P

218 vārāṇasī *ego* / bā rā ṇa sīr D / ba ra ṇā sir P, N, C, S

219 sroñ P, D, C / soñ N, S

220 dvags P / dags D, N, C, S

221 gnas su'o P, C, S / gnasu'o N / nags su'o D

222 la P, N, C, S / la || D

223 sā D, N / sa P, C, S

224 yoñs su P, D, C / yoñsu N, S

225 || P, D, N, S / | C

226 | P, N, C, S / || D

227 ñid du P, D, C, S / ñidu N

228 rjes su P, D, C / rjesu N, S

229 ba P, N, C, S / om. D

230 ba'o P, D, N?, S / pa'o C

231 rnams su P, D, C / rnamsu N, S

232 rjes su P, D, C / rjesu N, S

233 'das so P, D, N, C / 'daso S

234 || P, D, N, S / | C

235 ba P, D, N, S / pa C

dañ ñes par legs pa'i 'bras bu stsol ba'am²³⁶ thob par mdzad pa ste |
 de lta bu'i sprul pa'i sku gañ^(D 73b3) yin pa **de la phyag 'tshal lo**²³⁷ zes slob^(S 105a1) dpon Klu
 sgrub kyis^(C 83b7) gsuñs pa^(P 85a5) yin no²³⁸ ||
 de ni 'di skad du²³⁹ ston par 'gyur te |^(N 81b3)
 gañ gis bdag ñid kyis bsod nams dañ ye šes kyi tshogs yoñs su²⁴⁰ rdzogs par mdzad nas |²⁴¹
 gnas kyi mchog dga' ldan gyi gžal yas khañ na^(P 85a6) bžugs^(S 105a2) pa byañ^(D 73b4) chub^(C 84a1)
 sems dpa' dam pa tog dkar pos thugs kyi rañ bžin gyis byams pa dañ | sñiñ^(N 81b4) rje dañ | dga'
 ba dañ | btañ²⁴² sñoms dañ | bsam gtan bži bsgoms pa'i rim gyis^(P 85a7) mal 'byor chen po'i gnas
 'og^(C 84a2) min du mñon par byañ chub pa^(S 105a3) nam pa lña'i rim pas yañ dag par sañs^(D 73b5)
 rgyas so²⁴³ ||
 de nas sprul pa'i skus de bžin gšegs pa²⁴⁴^(N 81b5) thams cad loñs spyod²⁴⁵ rdzogs pa'i skus^(P 85a8)
 bžugs pa dañ | ri rab chen po'i steñ du rdo rje nor bu rin po che'i gžal^(C 84a3) yas khañ gi rtse mor
 gšegs te |
 dkyil 'khor^(S 105a4) nam pa bžir mñon par sprul par²⁴⁶ mdzad nas | slar yañ^(D 73b6) dga' ldan
 gyi²⁴⁷^(P 85b1) gnas mchog tu^(N 81b6) bžugs pa'i dam pa tog dkar po dañ gcig tu gyur nas lhums
 su²⁴⁸ 'jug pa dañ | bltams^(C 84a4) pa dañ | btsun mo'i nañ na rol pa mdzad par bstan pa dañ |^(S 105a5)
 mtshan mo mñon par byuñ^(P 85b2) ba dañ | dka' ba mdzad pa dañ | byañ chub kyi sñiñ por gšegs
 (N 81b7) pa^(D 73b7) dañ |²⁴⁹ bdud btul ba dañ | mñon par byañ chub pa dañ | chos kyi 'khor lo bskor
 ba^(C 84a5) nas ji srid du²⁵⁰ yoñs su²⁵¹ mya ñan las 'das pa^(P 85b3) chen po'i bar gyis 'gro ba^(S 105a6)
 ma lus pa'i don mdzad par rab tu ston pa'i sprul pa'i²⁵² sku la bdag lus dañ ñag dañ yid^(N 82a1)

236 ba'am D, N, C?, S / pa'am P
 237 'tshal lo P, D, C / 'tshalo N, S
 238 yin no P, D, C / yino N, S
 239 skad du P, D, N, C / skadu S
 240 yoñ su P, D, C / yoñsu N, S
 241 | D, N, C, S / || P
 242 btañ P, D / gtañ N, C, S
 243 rgyas so P, D, C / rgyaso N, S
 244 pa D, N, C / om. P, S
 245 loñs spyod P, D, N, C / loñspyod S
 246 par P, D, N? / bar C, S
 247 gyi D / gyis P, N, C, S
 248 lhums su P, D, C / lhumsu N, S
 249 | P, N, C, S / || D
 250 du P, D, N, S / tu C
 251 yoñs su P, D, C / yoñsu N, S
 252 pa'i P, D, N, S / ba'i C

kyis phyag 'tshal lo²⁵³ žes bya ba'i don to || (D 74a1)

de ñid kyi phyir na |

'og min gnas ni (C 84a6) ñams (P 85b4) dga' bar || gtañ ma'i gnas kyi steñ bžugs te ||

yañ dag sañs (S 105b1) rgyas der sañs rgyas || sprul pa²⁵⁴ dag ni 'dir sañs rgyas ||²⁵⁵

žes bya ba (N 82a2) gsuñs pas so²⁵⁶ ||

(4) de ltar tshigs su²⁵⁷ bcad pa gsum²⁵⁸ (P 85b5) gyis sku²⁵⁹ gsum (C 84a7) bstan (D 79a2) nas |

gžan yañ smon lam byed par 'dod pa'i phyir **sems can don gcig rgyun du mdzad ciñ**²⁶⁰ žes bya ba la sogs (S 105b2) pa smos te | sems can gyi don ni srog chags mams (N 82a3) kyi 'dod (P 85b6)

pa'i don rab tu sgrub ces bya ba'i don (C 84b1) yin pas na | 'gro ba'i don gcig rgyun du mdzad pa gañ yin pa de ni sems (D 74a3) can gyi don gcig rgyun du mdzad pa ste |

de lta bu'i sems can (S 105b3) gyi don mdzad pa de la phyag byas (P 85b7) pas žes bya bar sbyar ro²⁶¹ ||

yon tan²⁶² (N 82a4) ji lta²⁶³ bu dañ ldan že na | (C 84b2) **bsod nams ye šes chen po dpag med las**

byuñ ba'i²⁶⁴ žes bya ba smos te | bsod nams dañ ye šes chen po ni pha rol tu phyin pa (D 74a4)

drug dañ ldan pa'o || (P 85b8) de (S 105b4) yoñs su²⁶⁵ chad pa med par bsags pa ni dpag tu med pa ste |

bsod nams (N 82a5) (C 84b3) dañ ye šes chen po dpag tu med pa las byuñ ba ni de las skyes pa'o ||

de su žig ce na | **bde bar gšegs pa** ste mdzes par (P 86a1) gšegs pa'am slar mi ldog par gšegs (S 105b5)

pa'i chos can (D 74a5) ñid yin pas na bde bar gšegs (C 84b4) pa'o || yañ na ñid kyi (N 82a6) don mthar phyin pas na bde bar gšegs pa'o ||

253 'tshal lo P, D, C / 'tshalo N, S

254 pa P, D, N, S / ba C

255 || D / om. P, N, C, S

Lañkāvatārasūtra X-38, 39 (Nanjio, B (1923) p.269.4-7):

akaniṣṭha-bhavane divye sarva-pāpa-vivarjite /

nirvikalpāḥ sadā yuktāś citta-caitta-vivarjitāḥ // X-38

balābhijñā-vaśi-prāptāḥ tat-samādhi-gatiṃ gatāḥ /

tatra budhyanti saṃbuddhā nirmitas tv iha budhyate // X-39

256 pas so P, D, C / paso N, S

257 tshigs su P, D, S / tshigsu N, S

258 gsum P, D, N, C / gsum S

259 gyis sku P, D, N, C / gyisku S

260 ciñ D, N, C, S / tsiñ P

261 sbyar ro P, D, C, S / sbyaro N

262 yon tan P, D, N, C / yton S

263 lta P, D, N, S / om. C

264 ba'i P, N, C, S / ba'i || D

265 yoñs su P, D, C, S / yoñsu N

rnams kyi ^(P 86a2) **sku gsum** ni chos kyi sku dañ | loñs spyod²⁶⁶ rdzogs pa'i sku dañ | sprul pa'i sku zes bya ba'i sku gsum pa'o ||

de bas ^(S 105b6) na de'i yon tan²⁶⁷ gyi khyad par ^(C 84b5) ji lta ze na |²⁶⁸ **yid dañ** ^(D 74a6) **tshig gi lam** ^(N 82a7) **las rab tu 'das pa** zes bya ^(P 86a3) ba ste | dmigs su²⁶⁹ yod pa'i yid kyi yul las śin tu 'das pa'i don to ||

de lta bur gyur pa la mos pa'i **dad pas** 'dud ciñ **phyag byas pa** las so²⁷⁰ || ^(C 84b6)

bdag ^(S 106a1) **gis dge ba byañ chub sa bon** zes bya ba ni byañ chub pa'i ^(P 86a4) sa bon ^(N 82b1) ni²⁷¹ byañ chub kyi sems ^(D 74a7) zes bya ba'i don to ||

de bsgrubs śin **bsags pa'o** ||

des na de'i bsod nams kyi tshogs gañ yin pa des chos dañ loñs spyod²⁷² rdzogs pa ^(C 84b7) ^(S 106a2) dañ²⁷³ sprul pa'i mtshan ñid can gyi ^(P 86a5) **sku gsum thob** ciñ rig²⁷⁴ **nas 'gro ba** ma lus śin lhag ma med pa dag ^(N 82b2) byañ chub kyi lam la 'dzud pa ste |

byañ ^(D 74b1) **chub pa'i lam** ni byañ chub lam ste | 'phags pa'i lam yan lag brgyad pa'i lam chen po de la rab tu ^(P 86a6) ^(S 106a3) 'dzud ciñ 'god par śog ^(C 85a1) cig ces bya ba'i don to ||

bstod pa'i rgyal po mkhas śin yon tan²⁷⁵ phrul byuñ spyod ^(N 82b3) yul ba²⁷⁶ ||²⁷⁷

śin tu ñams med rgya chen sñiñ po don gyi tshogs sbas pa²⁷⁸ ||²⁷⁹

bdag ^(D 74b2) gis 'dir ni lo 'dab rtse ^(P 86a7) tsam blañs ^(C 85a2) nas mnam bśad kiyis ||

mchog ^(S 106a4) tu mkhas śin don gyi rjes 'brañ 'dir ni tshad ma yin ||

slob dpon Klu sgrub²⁸⁰ kiyis mdzad pa'i *sKu gsum*²⁸¹ ^(N 82b4) *la bstod pa zes bya ba'i 'grel ba*²⁸²

266 loñs spyod P, D, N, C / loñspyod S

267 yon tan P, D, N, C / yton S

268 | D, N, C, S / || P

269 dmigs su P, D, C / dmigsu N, S

270 las so P, D, C / laso N, S

271 ni P, D, C, S / om. N

272 loñs spyod P, D, N, C / loñspyod S

273 | P, N, C, S / || D

274 rig C / reg P, D, N, S

275 yon tan P, D, N, C / yton S

276 ba P, D, N, S / pa C

277 || D, C / | P, N, S

278 sbas pa P, D?, N, S / spas ba C

279 || P, D, N, S / | C

280 sgrub D, N, C, S / sgrubs P

281 gsum P, D, C, S / gsum N

282 ba C / pa P, D, N, S

rdzogs so²⁸³ || ||^(P 86a8)

rgya gar gyi mkhan po Śraddhā-^(C 85a3)karavarman²⁸⁴ dañ | bod kyi lo tsā ba Vande^{285 (D 74b3)}
Rin chen bzañ pos gsar du^(S 106a5) bsgyur cin źus pa lags so²⁸⁶ || ||²⁸⁷

『三身讚注釈』

『三身讚』という [著作] の注釈。

インド語で *Kāyatrayastotra-nāmasya vivaraṇa*、チベット語で『三身讚という [著作] の注釈』。

聖なるマンジュシュリー王子 (*Āryamañjuśrīkumārabhūta) に礼拝します。

偉大な我をもつ [方] (仏) の三身の讚歌は、
ナーガールジュナがお作りになったものであるが、
他に請われたので、
どのように構成されているか分析しよう。

そのうち「一ではなく多ではなく」などという3偈によって、「述べられること (叙述対象)」と、[その]「必要性」と、「結びつき (関連性)」と、「必要性の必要」が述べられるべきである。なぜなら、記述と必要性と関連性がない場合、熟考を先とする者 (*prekṣā-pūrvakārin) たちは受け入れることが [でき] ないだろう。

それゆえ、ここに何を説明するのかというと、それに対しては、正しく愚者たちを思念に入らせるために「述べられること」を説明するのである。説明には意味がないというもろもろの考えを正しく [理解に] 入らせるために、「必要性」を説くのである。関係 (thabs, *yoga) が無いという心配をとり除くために「関連性」を説明するのである。他に対して関係がない諸々に対して、どのように [理解に] 入らせ [られ] ようか。

それ [ら] のうち、ここでは三身が「述べられること」である。

その本性 (rañ gi ño bo ñid) を説明することが「必要性」である。その本性を説明するためにこの [諸] 偈が作られたのである。

それゆえ、必要性と諸偈の叙述と述べられるところの特徴における関連性、あるいは語と語との結びつき、あるいは可能性と可能性から生じるところの特徴における関

283 rdzogs so P, D, C / rdzogso N, S

284 śraddhākaravarman ego / śraddā ka ra wa rma P, D, N, C, S

285 vande ego / bande P, D, N, C, S

286 lags so P, D / lagso N, S / rdzogs so C

287 || || P, N, C, S / || D

連性、あるいは成立するものと成立させられたものの特徴における関連性、あるいはなされたこととなされることの特徴における関連性が「関連性」である。

それから、努力と精進の勤勉さをもって自身で三身の意味と作用を究極に達 [せしめること] が「必要性の必要」であると、知られるべきである。

これ (以上) は一つの [3 偈に] 共通した (一般的な) 意味 (**artha-sāmānya*) である。今 [から] は個々の意味が述べられなければならない。

(1) 「一ではなく多でもなく」などということに対しては、「一と多」とは一と多である。「一」とは第2のものが存在しないことである。「多」とは多いことである。一とも多としても生じない「法の身体であるところのそれに、私は礼拝します」というのが要約である。

なぜ「一でもなく多でもない」というのかといえ、なぜなら初めから生じないから、と [経典等に] 出ているので、初めから生じないその方に対して、一や多の状態として [形容を] なすことはできないからである。空間のように断裂のない本性 [をもつから]。

あらゆる事物もまた、ありのままの状態 (*de bzin ñid*, **tathatā*) から生じるのであるから。それゆえ、何が何から生じるのだろうか。何によって様々な色形として生じるのだろうか。それ [ら] は見られない。米などの種子 (種籾) から米という穀物が [生じるようなものである]。

このように空の状態 (*stoñ pa ñid*, **sūnyatā*) からあるものが生じるということは、恒常でも断滅でもない。なぜならばあらゆる構想作用から離れたあらゆる勝利者たちもまた、空であり、幻と同様であると考えられるからである。

他にもまた、区別して [形容を] なすために、「自と他に対する利益 [の] 偉大な充足 [の] 場所となっている」といわれる。「自と他」とは自と他である。それら「に対する利益 [の] 充足の場所となっている」というのは、成功 (*mñon par mtho ba*, **abhyudaya*、昇天すること) と至福 (*ñes par legs pa*, **niḥśreyasa*、解脱すること) の特徴を備えたものの偉大な充足の場所となっている、という意味である。

法界は一と多とを離れた本性 [をもち]、初めと終わりがなく、空の状態 (*stoñ pa ñid*, **sūnyatā*) にあると説明される場合、どうして自と他に対する利益 [の] 偉大な充足の場所となるのかといえ、誤りが無い [からである]。というのも、無知の潜在印象 (*bag chags*, **vāsanā*) の力によって、器 (器世間) と中身 (有情世間) のあり方とどまっているように、自と他に対する利益 [の] 偉大な充足の場となるからである。夢などの知識と同様である。

もし無知の潜在印象と法界 [の] 初めと終わりが無いという本性、それもまた無知の潜在印象において生じるならば、麝香 (じゃこう) などによって薫じられるのと同

様である。あらゆる事物の法性はこのようである。それゆえ自と他に対する利益 [の] 充足の場となるのである。

他にもまた、親友 (dge ba'i gśes gñen, *kalyāṇa-mitra) と出会って善い道を得ることによって、無知の潜在印象は突然遠ざけられてまったく清らかとなることは、金に付いた銅の汚れを離れるのと同様である。これに対して、福德と罪を [それぞれ] 受け、捨てることがあるのである。

それはなぜかという、[無知の潜在印象は] 正しい意味を理解しさえすれば尽きるからである。それゆえ、

ここ (世間) には除かれるべき [もの] は何もなく、置かれるべき [もの] も何もない。正しいことを正しく見る。正しく見るならば解脱する。と説かれる。このように条件 (縁) を備えた者は苦悩 (kun nas ñon moñs pa, *saṃkleśa) に至るだろうが、生じないものを生じたものとは見ない。生じたものは滅した諸々のものからさえ、まったく生じることがない。涅槃は灯火に似ている。

他にもまた、区別して [形容を] なすために、「存在ではなく非存在ではなく」といわれる。「存在」とは色形としての存在である。それ (色形) がなければ「非存在」である。両者とは異なるので「存在でなく非存在でない」と [される]。存在と非存在と [両者の] 中間を超えている。

それゆえ「空間のように一つの味をもつ」。「空間のように」というのは空間に似ていて、一味で、同様の本性としてあるところのもの、それが「空間のように一味である」といわれる。

それゆえ「理解しがたい本性をもつ」。存在と非存在の両者やそれ以外から追求されることを離れている。

それゆえ「汚れない」。貪りなどの罪惡の汚れを離れている。

それゆえ「変化しない」。つまり、自らの本性において変化しない。

「寂靜である」とは、あらゆる悩みが寂滅していることである。

「等しくない」とは、類似するものがないということである。

「等しい」とは、あらゆる事物 (chos) の根本において共通しているということである。

「満ちている」とは、あらゆるところに行きわたっているということである。

「[言語的] 多様性が存在しない」とは、あらゆる [言語的] 多様性を離れているということである。

区別して [形容を] なす [ために] 他にもまた、「個々に知られるべき」と [いわれる]。諸々の命あるものたちの個々に知られるということであり、若い女性の幸せを尋ねると同じである。

「喩えるものがない」とは、比喩を超えているということである。同様にまた、

類似したものは少しも存在しない。言語的なものも何が存在しようか。
ある近いもの、あるいは遠いものが、少しでも存在することはない。
等しいものの存在しない導師、その方をどんな喩えるべきもので量ろうか。
あり方を区別する場を離れたところの、等しいものないあなたに礼拝します。
と説かれているから。

このようであるところの法身である。「その」法身「に対して私は礼拝します」。

どのように、誰に対してかといえ、ば、「勝利者たち」である。知られるべきことを余すところなく理解することによって精神が恵まれるとき、身体と心によって礼拝する、という意味である。

(2)「自らの財産」とは、三界すべての大主宰神の特徴である。

区別してどのように「形容されるのか」というと、「世間を超越した」と。つまり、世間から勝利した、ということである。

「思慮の及ばない」とは、心の領域から遠くにあるということである。

「百の善の行為の結果」というのは、布施などの完成（到彼岸, *pāramitā）を長い間かけて積んでから生じたものである。

誰のかというならば、「賢者たちの」。Maitreya や Amoghadarśin や Sarvāpāyajaha や Sarvasokataṃonirghātanamati など「の菩薩たちのこと」である。

何のためにかという、と、「喜びを生むために」、つまり喜びの原因と「なるために」。

「群集」とは、菩薩の集まりである。彼らの「中で」。

「様々に」とは、多くということである。

「広くお説きになる」と。信仰（mos pa）が様々であり、考え（bsam pa）が違う命あるもの（sems can）を引きつけられて（dbañ du mdzad）から、区別多くお説きになる、ということである。

「絶えず正しい教えの大きな叫び声をあらゆる世間に広げることなされた方」というのは、偉大な最高の教えの説示である。あらゆるところで働くために「広大な」である。まさにそれによって、その（教えの）流れは不断に広められるために、多く、広くなど「といわれるのであるが、そうした」最高の教えを説き示した、その方に対して以上のように「いわれる」。

「仏」というのは、法の真実をありのままに得て、理解する「方である」。

「享受[せしめる]身体」というのは、享受[せしめる]方の身体である。十地の主宰である菩薩たちに対して、種々の教えを説くことなどによって享受[せしめること]をなす。

それゆえ区別して「形容をなすために」他にもまた、「法の大王国にとどまっている」といわれる。法の王国でもあり、偉大でもあるから、法の偉大な王国である。三

界すべての主である。そこにとどまっている身体であるところのその人に対して、そのように [いわれている]。

(3) このように 2 偈によって二身の自身の本性を急いで説いてから、変化の身体の本性を説くために、

「命あるものたちを成熟させるために、時には実に火が燃えるように輝き」などといわれる。「命あるものたち」とは、生き物たちということである。なぜかということ、「成熟させるために」と。成熟させる目的で、ということである。どのようにかということ、「時には実に火のように」、つまり火焰のように遍く燃え、輝く、つまり光をもってよく燃え、輝く。

どの場所で輝くかということならば、言う。「完全な悟り」と。悟りの状態において。

「法の輪 [において]」とは、Vārāṇasī に [ある] 仙人 (*ṛṣi) [の住処] といわれる鹿の園で [ということである]。

「寂静な [方として] 現れるけれど」とは、マツラ族 (*Malla、末羅) に近く囲まれて、対になったサーラ (sāla) 樹 (沙羅双樹) の林で大いなる完全な涅槃 (*mahā-parinirvāṇa) を示された [ということである]。

区別して [形容して]、どのようにかということ、「様々な手段や形によって」と。仏、独覚、声聞、菩薩、梵天、インドラ、大主宰神など様々な形の自我 (bdag ŋid) として説かれる [からである]。

区別して、どのようにかということ、「多くの姿で活動し」と。導かれるべき種々の多くの形になって行為する、ということである。

区別して、どのようにかということ、「三種の存在の怖れを取り除く」と。欲と色と無色という三種 [の世界] の存在の命あるものたちの、生などの罪過を遠ざけなせることが「怖れを取り除く」である。

他にもまた、区別して [形容を] なすために、「十方に現れる、諸々の賢者の化身で大きな利益をもった」と。「十方に現れる」とは、十の方角に遍く行きわたることである。賢者は身体と説示の沈黙 (thub pa, *mauna) を備えているから賢者であり、仏、世尊である。大きな利益とは、明らかなより高い生まれ (昇天) と、確実に善い結果 (解脱) を与えること、あるいは得させることである。

このような変化の身体であるところの「その方に礼拝します」と、師ナーガールジュナによって説かれている。

それがこのように説かれている。誰によってかということ、私自身によって。福德と智慧の集まりを完成させてから、最上の境地 (gnas kyi mchog, *Parasthāna, 究竟処) の兜率天 (*Tuṣita) の宮殿にとどまる菩薩である白幢 (dam pa tog dkar po, *Śvetaketu) が心の本性 (rañ bžin, *svabhāva) として、慈愛 (*maitrī, 慈) と慈悲 (*karuṇā, 悲) と

歡喜 (*muditā, 喜) と無関心 (*upeksā, 捨) との4つの精神集中の修習の次第によって、大ヨーガの下のない境地 (gnas 'og min, *Akaṅkṣā, 色究竟天) で、明らかに5種の悟りによって正しく悟った。

それから変化の身体によってあらゆる如来の受用の身体としてとどまり、そして大きな山の頂上に [ある] 貴重なダイヤモンド石の宮殿の頂上に行った。

4 種の世界で顕わに変化をなしてから、再び兜率天の最上の境地 (gnas mchog, *Parasthāna, 究竟処) にとどまっている白幢 (dam pa tog dkar po, *Śvetaketu) と1つになってから、胎内に入る。そしてお生まれになり、王妃の内 (庭) で歡樂をなさることに苦しめられ、夜に出家して、苦しみ (苦行) をなして、悟りの場に向かい、悪魔を制圧し、明らかに悟って、法の輪を回してから、完全な大涅槃に至るまでの間に、命あるものすべての利益をなすことを示すところの変化の身体に対して、私は身体と言葉と心 (身・口・意) をもって礼拝します、という意味である。

それはなぜかといえば、

心地よい色究竟天という、清らかな境地 (gtsaṅ ma'i gnas, 淨居天) の上にとどまる。

正しく悟る方はそこで悟る。[一方で] 諸々の変化身はここ (世間) で悟ると説かれるからである。

(4) このように、3偈によって三身を説いてから、

他にもまた、誓いをなすことを欲するために、「命あるものためにひたすら絶えず行動し」などといわれる。「命あるものために」とは、生き物 (srog chags) たちの欲するところの利益を完成する、という意味であるから、生き物 ('gro ba) のためにひたすら絶えず行動するところのその人は、命あるもの (sems can) のためにひたすら絶えず行動するということである。

そのように命あるものために行為するその方に、礼拝をなすことによって、というように結びつく。

福德はどのようなものかという、「量り知れない偉大な福德と智慧から生じたところの」といわれる。「偉大な福德と智慧」とは6つの完成 (*pāramitā) をもったものである。それ [ら] を不断に積み重ねた [もの] は測ることができない。福德と智慧という偉大で測ることのできない [もの] から生じるということは、それ [ら] から生じるということである。

それは誰かといえば、「善逝」と。よく逝った [方] あるいはまた、退くことなく逝った [方] の特性 (chos) を備えていることから、善逝である。あるいは、自身 (ñid) の目的に到達しているので、善逝である。

「[彼] らの三身」とは、法身と受用身と変化身という三身である。

それゆえ、その特質について区別して [形容すると]、どのようなかといえば、「意識

と言葉という手段を超越している」と。対象として存在するところの意識の領域を超越している、という意味である。

このようであるものに対して、信心すなわち「信仰心によって」敬礼し、「礼拝をなすこと」から、[ということ] である。

「私によって吉祥な悟りの種子」というのは、悟りの種子とは悟りの心という意味であり、

それを完成して「積む」ということである。

それゆえ、その福德の集まりであるところのそれによって、法と受用と変化の特徴をもったところの「三身を得」て、つまり知って「から、命あるものが」余すところなく残りなく、悟りの道に導かれる。

「悟りの道」とは、悟りの道である。聖なる者の道である八支の大きな道、そこに導かれて安定しますように、という意味である。

知識があり、完全な徳性 [をもって] 活動する、称えられる王は、罪過がなく、広大で、真髓の意味の集まりを蓄えている。

私がここに [大木の] 葉の先ほどだけを得てから解説したことによって、[王は] 最も知識があり、意味にしたがう [べき方で]、ここでは論拠 (tshad ma) である。

師ナーガールジュナがお作りになった、『三身に対する讃歌という [著作] の注釈』を終わる。インドの学者 Śraddhākaravarman とチベットの翻訳者 Vande Rin chen bzaiṅ po によって、新たに翻訳され、修正された。

京都大学大学院修了
Ex-Graduate Student,
Kyoto University
Kyoto, Japan